



THE MAUREEN AND  
MIKE MANSFIELD FOUNDATION

Connecting People and Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations

[\[News Release in English\]](#)

ニュースリリース

2024年1月30日

## 第28期マンスフィールドフェローを発表

(ワシントン D.C.)モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団(以下、マンスフィールド財団)は、[マンスフィールド・フェロースhip・プログラム](#)第28期生の米国連邦政府職員10名を以下に発表いたします。本プログラムは、2年間プログラムで、うち1年が日本での研修となります。

本プログラムは、米国政府内で日本専門家を養成するために、1994年米国議会によって創設され、第28期生は、過去に30近い米国省庁、独立連邦行政機関及び米国議会から参加した198名の同窓生の輪に加わることになります。

なお本プログラムは米国政府より助成され、米国国務省教育文化局の支援の下、マンスフィールド財団が運営を行っています。

第28期生として選抜された10名のマンスフィールドフェローは以下の通りです。

ダリウス・ブラウン	米国空軍少佐 国防総省 F-35 ライトニング II 統合打撃戦闘機計画オフィス プログラムマネージャー
ミチコ・フィエン	米国保健福祉省 米国食品医薬品局(FDA) 製品評価及び品質室(OPEQ) 医薬品医療機器審査官
エイドリアン・ジョンソン・クルニツ	米国運輸省 連邦航空局(FAA) 航空会社安全管理室 航空安全検査官
リリー・マノ	米国住宅都市開発省 高齢者福祉・住宅局 高齢者環境プログラム専門官
マシュー・マツヤマ	米国国土安全保障省 連邦緊急事態管理庁(FEMA) 連邦保険局 統計学者
エイミー・シャープ	米国原子力規制委員会 原子力規制研究局 事故分析部門 原子炉システムエンジニア(経済モデリング)
ディリース・スミザー	米国運輸省 連邦高速道路交通安全局 研究およびプログラム開発室 研究心理学者
デリック・スタイナー	米国空軍大尉 第567 サイバースペース航空団 オペレーションズ・グループ・インテリジェンス副主任
ジェニファー・ジャンユアリー・テリエ	米国国務省 外交官
ケリー・ボードン	米国国防総省 政策担当国防次官オフィス 外交スペシャリスト

28期マンスフィールドフェローは、米国内において2023年7月から2024年6月の12か月間におよび、日本に関する専門知識・文化・言語の研修を受けた後、来日します。石川県で7週間の日本語集中プログラムに参加し、その後、10か月間、主に日本政府の省庁に配属されます。第28期生は、2024年7月1日に日本へ向けて出発し、2025年6月30日に帰国予定です。

マンスフィールドフェローは、日本の省庁や国会議員事務所、非政府機関等で同僚と机を並べながら、日本政府や政策決定プロセスへの理解を深めます。フェローは所属する連邦政府機関に復職後、本プログラムを通じて得た経験や日本政府、ビジネス界、専門家、学会とのネットワークを日本とアジアに関するプログラムや政策関連の業務に役立てていきます。

マンスフィールド財団のフランク・ジャヌージ理事長兼最高経営責任者は、以下のように述べています。

「新しいフェローを迎え入れるのは、私たちにとって一年で最も胸が躍ることです。第28期フェローは、(一度1年間に短縮されたプログラムが)再び2年間に戻った最初のプログラム参加者となり、これからの1年間は、日本で過ごす一生に一度の経験のために準備を行います。故マンスフィールド大使は、日米関係を『他にはない、世界で最も重要な比類なき二国間関係』と考えていました。私たちは、米国連邦政府職員の彼らがこの重要な二国間関係に貢献できるよう支援することを楽しみにしています。」

マンスフィールド財団のプログラム担当アソシエイト・ディレクターのネイサン・フィンチも以下のように述べています。

「新しいフェローは数多くの分野の専門家の輪に加わり、連邦政府職員による日本専門家集団を作るという目標を受け継いでいきます。第28期フェローの多様性は、彼らの経歴や関心を見ればわかります。今回は米国住宅都市開発省から初めてフェローを迎え、また安全保障、リジリエンス、貿易、外交など多岐にわたる面で二か国間関係の強化に関わる政府機関からフェローを迎えることができ大変嬉しく思っています。」

---

マンスフィールド財団は、米国歳入法 501(c)3 条によって認可された米国・アジアにおける理解と協力を促進する民間の非営利団体です。当財団は、モンタナ州選出の上院議員、多数党院内総務、駐日米国大使として、その生涯を通じて、20世紀の主要な国内外の問題で重要な役割を果たしたマイク・マンスフィールド大使(1903-2001年)を称え、1983年に設立されました。マイク・マンスフィールド大使とモーリーン夫人が米国とアジア各国との関係について抱いた価値観、理想、ビジョンは、財団の交流、政策対話、研究および教育プログラムに受け継がれ、米国およびアジアのリーダー間のネットワークを生み出し、公共政策に影響を与える根本的な問題を探求し、米国のアジアの国々や人々に対する意識向上につながっています。当財団の事務所はワシントンDC、東京、モンタナ州ミズーラにあります。

---

[モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団](#)

[日本語ホームページ](#)